

がんばれ!!

ばいとくん

最終回 「ばいばい!! ばいとくん」

長い旅から京都に帰ってきたばいとくん。今度は遺跡発掘のバイトに応募した。

場所は京都市郊外の古墳跡で、当日集まったのは全部で40人あまり。作業服の男性が多かったが、学生らしい人も数人いたのでちょっと安心。約20分間の説明の後に作業が始まった。

作業の手順は、まず大型機械で掘った穴の中をスコップで掘り起こして遺物を回収する。一通り自分の持ち場を調査し終わると、今度は掘った穴を元に戻す。その合間に周辺の作図や写真撮影を行う。これが朝9時頃から日暮れまで延々と繰り返される。

この作業の中で遺跡発掘の魅力といえば遺物の発見である。しかし遺跡発掘初心者のばいとくんはなかなか見つけられない。逆に、隣で掘っていたおじさんは次々に骨角器や勾玉を回収していく。

「すごいな、さすがベテラン。でもあれだけ取れたら1個ぐらい持って帰りたいな」とずるいことを考えるばいとくん。だが、当然ながら出土した遺物は記録を残すために全部回収される。



作業をする中でばいとくんは一緒に働く人達と話す機会があった。その際に応募理由を聞いてみると、

「歴史が好きなんだよ。遺跡発掘で新たな発見をしたら、歴史の発見者になれるそうやる」(文系学生)

「僕は専攻が地質学だからその参考にしたいんだ」(理系学生)

「定年してからはこの土いじりが趣味なんじゃよ」(お年寄り)

などと、それぞれもったもな動機を持っていたので、内心で埋蔵金の発掘を狙っていたばいとくんはちょっと恥ずかしくなった。

その日の作業が終了したのは夕方の5時。疲れは大きかったが、未知の経験ができたことの満足もまた大きかった。

へとへとに疲れて下宿に帰ったばいとくんは早い時間に床についた。

夢でもばいとくんは昼間と同じように遺跡発掘をしていた。するとスコップに何か硬いものが当たる。

「ん? 埋蔵金かな?」

掘り出してみるとプラスチックの箱だった。

「何だこれ? 開けてみよ」

箱の中にはカードやヨーヨーなどのおもちゃと1枚の紙が入っており、その紙には幼い文字で『ぼくのゆめ ○○○』と書いてあった。

「あ、これ俺の子供のころのタイムカプセルだ」

と悟った瞬間目が覚めた。

ばいとくんの目にまぶしい朝日が差し込んできた。

「なんだ夢だったのか……そうだ、俺にはやりたいことがあったんだ。大学へ行って勉強しよう」

希望を胸にばいとくんは久しぶりの大学へと出かけていった。

「がんばれ!! ばいとくん」は今月号をもって終了します。今までご愛読ありがとうございました。

はいはい!!



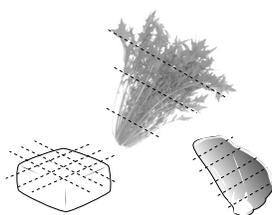
かんたん Cooking

材料 (1食分)

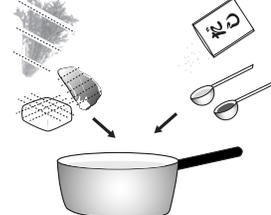
水菜	2株
豆腐	1/4丁
豚肉	適量
しょうゆ	小さじ2
みりん	小さじ1
だしの素	大さじ1
水	150cc

水菜のさっと煮

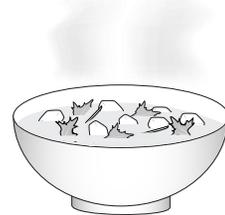
京野菜の代表格、水菜。今月は、その水菜を使った料理を紹介します。(佐和)



①水菜は洗って根を切り落とし、ざく切りに。豚肉は適当な大きさに、豆腐はさいの目に切る。



②鍋に水を沸かし、だしの素を入れてからしょうゆとみりんを入れ、豚肉と豆腐を火が通るまで煮る。



③煮えたら水菜を入れ、少ししんなりしたら火を止め、盛りつける。

はみだし
すてーじ

クリスマスからバレンタインまでの期間は1年間でもっとも憂鬱な3ヶ月だよな。
⇒楽しくない時間は長く感じますね。

(法・3 守銭奴)
(実際は2ヶ月ですよ; 編)